



校 区 探 検

古 墳

北宇智校区には、本校が建っている引ノ山古墳群をはじめ近内町の罐子塚（かんすづか）古墳、出屋敷町の塚山古墳、西河内町の猫塚古墳など、古墳時代（3世紀半ばから7世紀末まで）に造営されたと考えられる古墳があります。

これらの中では罐子塚古墳が最も早く築造されました。径 85m、高さ 10m以上もある円墳で二段に構築されています。市内で一番大きな円墳ですが、全国的に見ても規模の大きなものだと思います。墳丘の斜面に石が葺かれ、平坦面には円筒、朝顔形植輪のほか、家などの植輪も並べられていたようです。

塚山古墳は一辺 24m、高さ 5m の方形墳で、内側が朱に塗られた石棺とその中に人骨が発見されました。鉄剣と甲冑も出土しています。

猫塚古墳は一辺 27m、高さ 5m の方形墳で、墳丘中央の竪穴式石室の内外から豊富な大陸・朝鮮半島的な遺物が出土しました。中でも蒙古鉢形眉庇付兜は、金銅装の小札と鉄地の小札を組み合わせ、鉢部は西洋ナシのような形状をした珍しいものです。



五條市には大小合わせて 150 ほどの古墳がありますが、そのほとんどは北宇智と阿太にあります。古代より開けた地域で、大陸との交流もあり、当時としては文化の栄えた地域であったことが窺えます。



罐子塚古墳



塚山古墳



猫塚古墳